

令和7年産小麦の作況と麦類の当面の技術対策

米麦畜産課
(農産振興室)

生育の概況	小麦の成熟期は平年並となった。収量は平年並～やや良、品質は平年並み。出穂期以降の降雨により、赤かび病やなまぐさ黒穂病が平年よりやや多く見られる。作柄は「並～やや良」が見込まれる。
作業の進捗状況	調製

1 気象経過（前橋橋地方気象台データの平年比、※6月は20日まで、参考資料参照）

項目	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	※6月
平均気温	+1.5℃	+0.3℃	+1.3℃	-0.3℃	+1.2℃	+1.4℃	+0.3℃	+2.2℃
降水量	140%	-%	20%	4%	144%	114%	140%	90%
日照時間	105%	115%	115%	106%	96%	104%	86%	112%

2 生育概況

(1) 概要

12月から2月末まで乾燥傾向で続いていたことから生育は緩慢で、は種時期の遅速による生育差が大きくなっていた。3月以降は降水量が増え、気温も平年より上回ったことから、停滞気味であった麦の生育が促進された。出穂期は小麦、二条大麦、六条大麦ともに平年並から3日遅い程度となった。成熟期は、二条大麦、六条大麦で平年並から3日遅く、小麦は6月以降に高温が続いたことから急速に成熟が進んだことから平年並となっており、一部では3日程度遅れている。また、収穫時の水分が低い傾向であった。

出穂期以降の高温と降雨により、赤かび病が県域全体で平年よりやや多く発生している。また、5月以降の断続的な降雨により、畑麦ではなまぐさ黒穂病が見られ、収穫断念するほ場もあった。

収量は二条大麦、六条大麦では平年並、小麦では平年並からやや良。品質は二条大麦、六条大麦で細粒傾向ではあるが平年並、小麦では一部で刈り遅れによる硬質化や退色がみられるものの平年並。

(2) 病害虫・障害等の発生状況

雑草の発生がやや多い（イタリアンライグラス、カラスノエンドウ、ヤエムグラ等）。病害は、県域全体で赤かび病がやや多い。畑麦でなまぐさ黒穂病がやや多い。

(3) 作況は等の調査結果

作況は（さとのそら）のデータの平均は、播種期は11月25日（過去平均比+3日）、出穂期は4月19日（同+3日）、成熟期は6月6日（同+2日）、稈長は80.0cm（同103%）、穂長は8.7cm（同103%）、穂数は709本/m²（同102%）、収量は642kg/10a（同116%）となっている。（表1）

農業技術センターの生育基本調査結果（小麦「さとのそら」、11月14日播種）では、出穂期は4月20日（同+1日）、成熟期は6月6日（同±0日）、稈長は78cm（同98%）、穂長は8.6cm（同96%）、穂数は443本/m²（同89%）、千粒重は38.4g（同102%）、収量は439kg/10a（同93%）であった。（表2）

(4) 作柄のまとめ

小麦の作柄は、中部が「並～やや良」、伊勢崎、西部、東部が「並」、館林が「やや良」であり、県内の平均作柄は「並～やや良」が見込まれる。（表3）

表1 小麦作況ほ調査結果（さとのそら）

地 区	出穂期 月 日	成熟期 月 日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/㎡	収量 kg/10a	千粒重 g
平 均	4/19(+3)	6/6(+2)	80.0(103)	8.7(103)	709(102)	642(116)	37.7(102)
前 橋 市	4/17(-)	6/6(-)	82.1(-)	9.0(-)	751(-)	742(-)	40.2(-)
伊勢崎市	4/20(+5)	6/7(+3)	74.7(100)	8.0(98)	654(109)	596(121)	38.6(102)
高 崎 市	4/18(+4)	6/5(+3)	78.2(107)	8.2(101)	681(109)	- (-)	- (-)
太 田 市	4/22(+2)	6/6(+2)	77.9(101)	8.9(109)	576(97)	602(114)	37.7(101)
千代田町	4/19(+1)	6/7(+2)	89.0(104)	9.5(103)	926(97)	728(114)	36.7(102)

*各地区の()内は過去の平均値に対する日数および比率(%)。

*日数の「-」は早い、「+」は遅いことを示す。

過去の平均値は、前橋市はほ場変更により過去値なし、伊勢崎市は過去3年、高崎市は同5年、太田市は同10年、千代田町は同3年の値。前橋市は県平均から除外した。

高崎市は収量、千粒重は測定前のため県平均から除外した。

表2 生育基本調査結果（農業技術センター、さとのそら）

播種期 月/日	節間伸長始期 月/日	出穂期 月/日	成熟期 月/日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/㎡	収量 kg/10a	千粒重 g
11/14 (-1)	3/19 (±0)	4/20 (+1)	6/6 (±0)	78 (98)	8.6 (96)	443 (89)	439 (93)	38.4 (102)

※()内は過去10年の平均に対する日数および比率(%)

表3 農畜産課・地域農業課管内の麦類（小麦）の作柄概況

地 区	県平均	中 部	伊勢崎	西 部	東 部	館 林
作柄概況	並～ やや良	並～ やや良	並	並	並	やや良

3 技術対策

(1) 調製の徹底による良品質化

登熟中の高温、降雨の影響により細粒・未熟粒・硬質粒が見られることから流量等に留意するとともに、必要に応じて色彩選別機等を活用して丁寧に調製する。フルイ目はビール大麦が2.5mm、六条大麦（食用）と小麦が2.0mmを基準とし、必要に応じてフルイ目の調整を行う。乾燥仕上がり水分はビール大麦・六条大麦が13%以下、小麦が12.5%以下とする。

(2) 次年産小麦の技術対策

ア 特に排水不良田では、可能な限り暗きょや明きょを施工し、ほ場内の滞水防止を図るとともに、播種が遅れないよう計画的に作業を行う。

イ 深耕の実施や有機物の投入により保水性を高めるなど、土作りや適正な施肥を行い生育の健全化を図る。

ウ 適期播種に努め、早播は凍霜害を受ける危険性が高まるため行わない。

エ 規模拡大に伴い、作業の遅れや適正管理ができていないほ場が増加している。

経営規模に応じた機械装備と人員配置に配慮し、適期作業・適正管理を心がける。

オ 除草剤は播種後速やかに散布する。除草効果を高めるため、十分な碎土と鎮圧を行った上で処理する。春先に雑草が多い場合は草種に応じた除草剤を選択し、適期に散布する。イタリアンライグラス、カラスノエンドウ、カラスムギなどは体系処理等を行い、残草した場合は確実に抜き取りを行う。

カ 麦踏みは適正に行い、暖冬年は通常年より多めに実施する。

キ 近年、施肥量が不足している小麦ほ場が多く、枯れ熟れの発生要因にもなっている。品種に応じた施肥量を遵守するとともに、追肥は生育量に応じて必ず実施し、収量確保とタンパク質含量の安定を図る。

- ク 種子消毒、赤かび病および雑草は適期・適切に防除を行う。
- ケ ほ場において赤かび病、なまぐさ黒穂病、穂発芽の発生が認められた場合は、健全麦への混入を回避するため別収穫とし、乾燥調製施設等への搬入は行わない。
- コ 適期収穫に努め、刈り遅れには十分注意する。成熟期後に長雨が予想される場合は、収穫可能なほ場では極力収穫をすませる。

【参考資料】

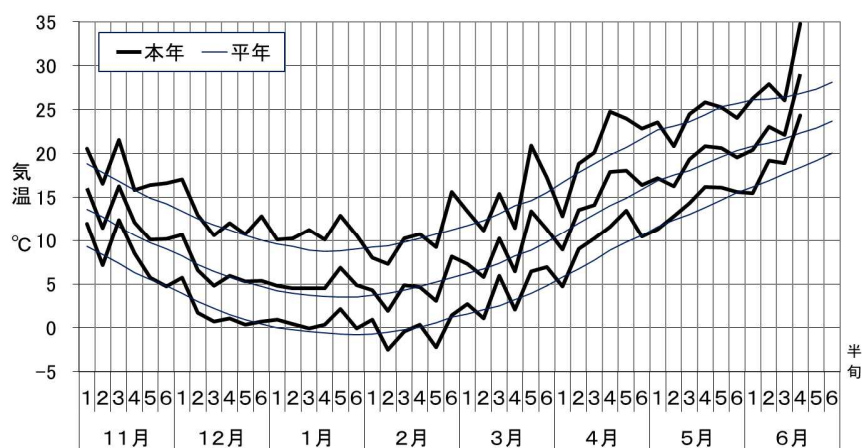


図1 麦作期間の気温（前橋地方気象台）

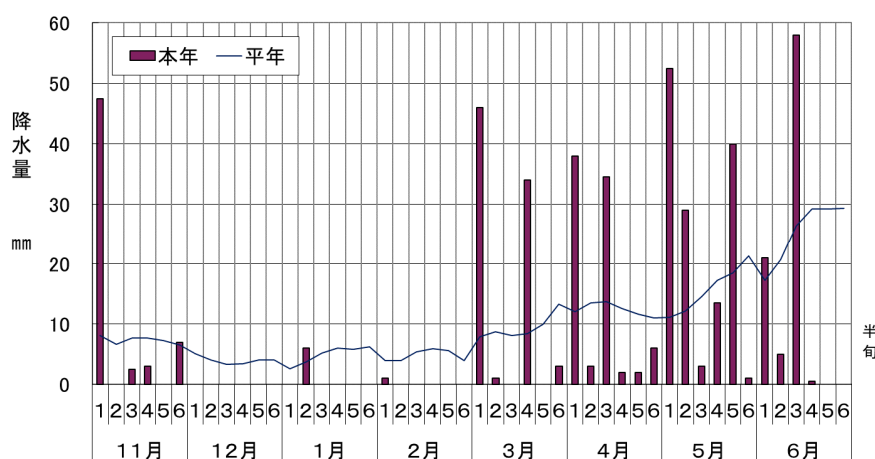


図2 麦作期間の降水量（前橋地方気象台）

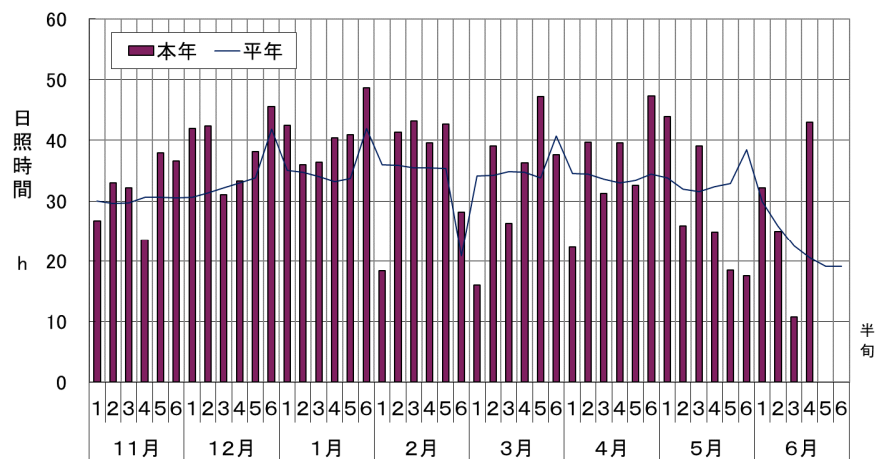


図3 麦作期間の日照時間（前橋地方気象台）